

令和4年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：福岡筑後プラスチックリサイクルループ協議会（プラリ）

活動地域：福岡県南筑後地域

（みやま市・柳川市・筑後市・大川市・大木町）

活動におけるテーマ

高品質プラスチックリサイクルの

地域循環

南筑後モデルを全国へ！

本事業への関わり：2年目



活動団体と地域の紹介

協議会メンバー

自治体（廃プラスチック・紙おむつの回収） みやま市、柳川市、筑後市、大川市、大木町

民間企業（地域資源の循環システムの構築） YKクリーン、いその、トータルケア・システム、F-COOP、大日本印刷、岐阜プラスチック工業

大学・研究機関（分析・デザイン） 九州大学、福岡大学、北九州市立大学、福岡アジア都市研究所（URC）

団体（関係者ネットワークの構築） プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、市民団体



地域について

高品質プラスチックマテリアルリサイクルによる、地域循環共生圏の構築

現状：南筑後地域5市町で、プラスチックの広域回収を行っている

- 資源：
- ①地域で回収している廃プラスチック、使用済み紙おむつ
 - ②プラスチックの高品質マテリアルリサイクル技術、油化技術
 - ③紙おむつリサイクル技術

- 課題：
- ①廃プラスチック、使用済み紙おむつ回収率の向上
 - ②地域資源の域外流出
 - ③プラスチック再生品のビジネスモデルの構築

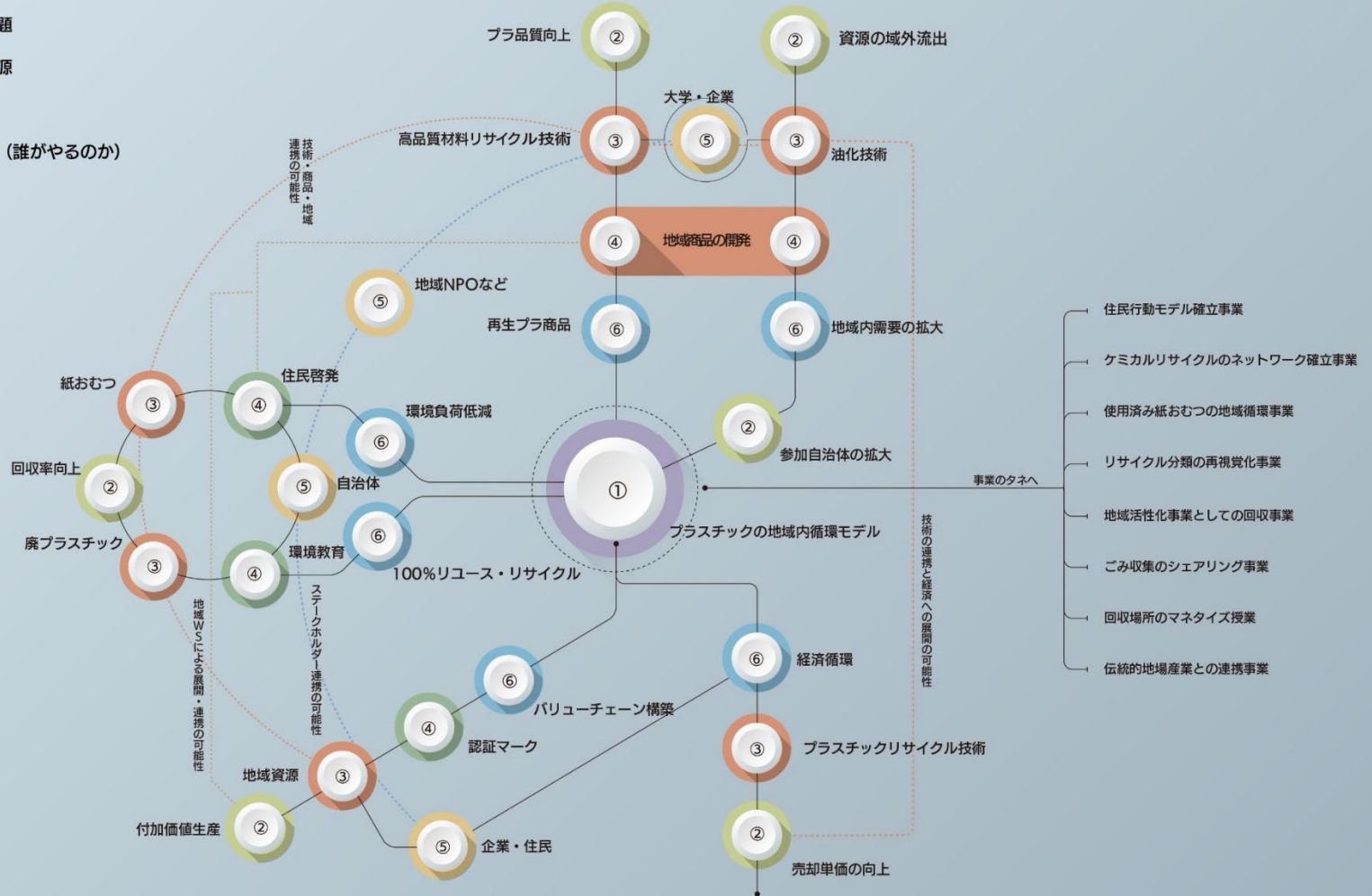


南筑後モデルを全国へ展開

現時点の地域版マンダラ

福岡筑後プラスチックリサイクル推進協議会

- ①ビジョン (ありたい未来の姿)
- ②地域課題
- ③地域資源
- ④事業
- ⑤担い手 (誰がやるのか)
- ⑥成果



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

プラスチックリサイクル推進マンダラ図

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して
解決したい地域の課題

- ・地域資源の流出
- ・プラスチックリサイクル率の向上
- ・再生品によるビジネスモデルの構築

地域のありたい未来

プラスチックの水平リサイクルが
実現し、地元企業のビジネスとして
成り立っている（環境と経済の
好循環）

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

南筑後地域で排出される廃プラスチック約6,000 t 弱を効果的に回収・再資源化していくためのプラットフォームとして、関係5市町を中心としながら、回収・分別企業、大学・研究機関、市民団体等を巻き込んだプラットフォームを構築する。

主な役割：南筑後地域資源の地域循環システムの構築に向けた、各地域の課題整理、地域住民への普及啓発、再資源化プロダクトの開発、企業・自治体連携のモデルづくり。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

ヒト：地域の市民団体

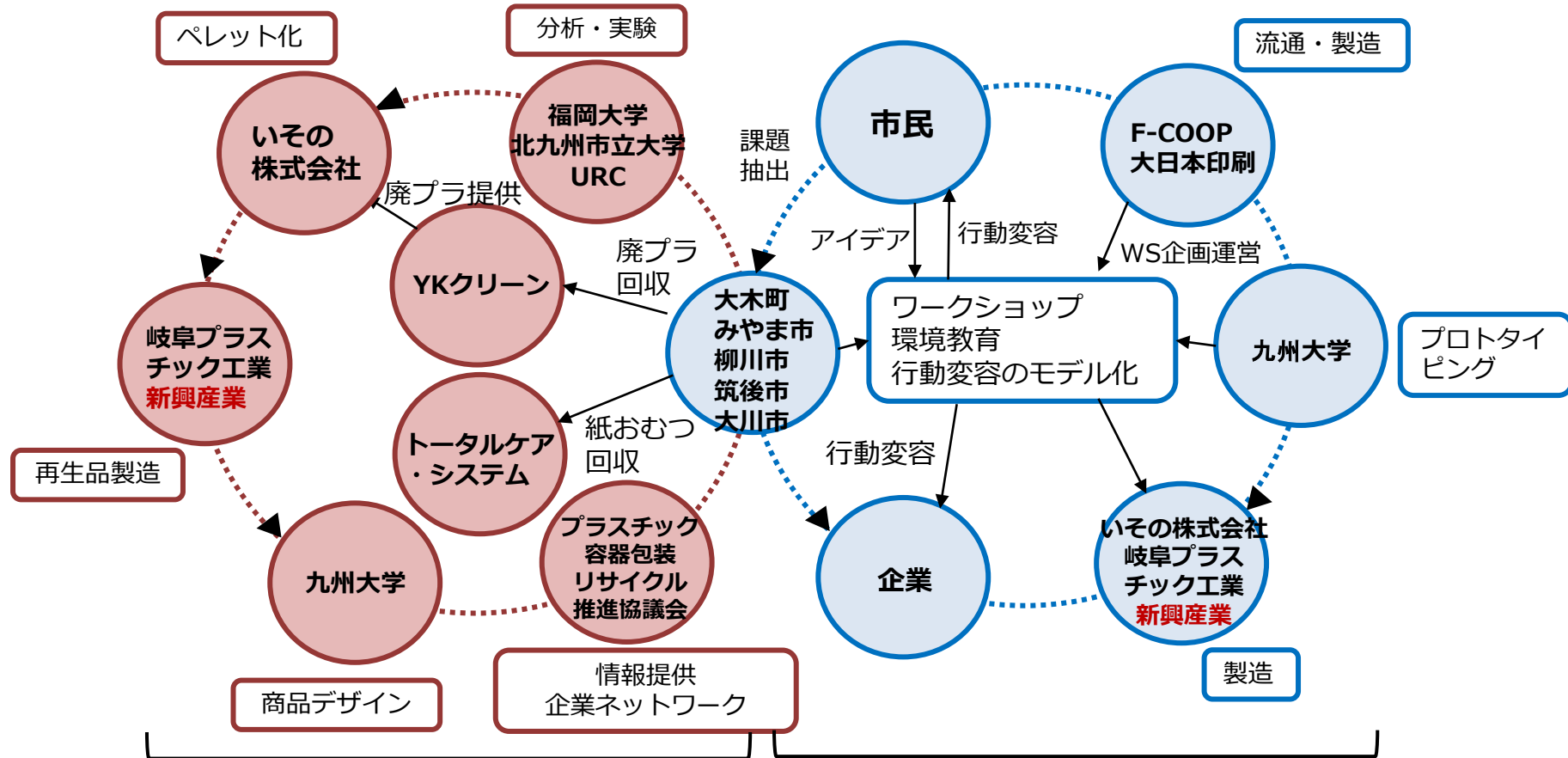
モノ：地域の廃プラスチック、使用済み紙おむつ

資金：クラウドファンディング、企業版ふるさと納税

情報：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



新たに加わってほしいSH ^{ステークホルダー}

- ・軟質プラスチック製造メーカー
- ・地元金融機関
- ・マスコミ関係

想定している課題・阻害要因

- ・地元企業の協力度
- ・再生プラスチック製品の流通先の確保
- ・プラスチック回収率

地域のありたい未来

高品質プラスチックマテリアルリサイクルによって、南筑後地域の廃プラスチックが100%リユース・リサイクルされている

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

- ・自治体連携によるプラットフォーム運営体制の構築
- ・回収率100%および再資源化に資する最適な回収ルールの確立
- ・再資源化プロダクトによる資源循環の見える化による継続的な普及啓発

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

1. 回収率向上に向けた取り組み

- ① 各自治体毎の課題抽出と解決に向けたワーキングの実施
- ② 製品価値向上によるプラスチック分別・回収への市民意識の向上
（再生生ごみバケツのモニター事業、生ごみバケツ以外の新しい製品の検討）

2. 中長期的なロードマップの作成

- ① 中長期的な目標設定
- ② その実現に向けた推進体制の強化

年間スケジュール

配布のみ

